

キャンプ桑江南側地区



まちづくりニュース

ホームページ

<http://www.chatan.jp/project/camp-kuwae/index.html>

—第13号—

春の訪れを感じる頃となりましたが、地権者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

キャンプ桑江南側地区（以下「本地区」）の返還については、平成24年4月27日の日米安全保障協議委員会の共同発表において、代替施設が提供され次第、返還可能となることが確認されています。また、海軍病院については、今年2月に移転先のキャンプ瑞慶覧において、新たに米軍へ提供されましたが、本地区の具体的な返還時期は未だ明らかになっておりません。

さて、今号のまちづくりニュースでは、2月15日に開催した「沖縄におけるグローバル人材育成を考える講演会」についてお伝えします。

「沖縄におけるグローバル人材育成を考える講演会」について

～開催の概要～

■開催日

平成25年2月15日（金） 午後7時～8時40分

■開催場所

ちやたんニライセンター（カナイホール）

■講師

とよかわ さやか
豊川 明佳 氏（有）インターリンク沖縄 取締役）

■参加者数 86名

内訳（キャンプ桑江南側地権者：27名、北谷町民：40名、その他：19名）



会場の様子

北谷町長 野国昌春 挨拶（【代読】副町長 神山正勝）

沖縄県は、アジア太平洋地域、その周辺の国々が目覚ましい経済発展を続けていく中で、その経済成長と活力を取り込み、我が国の交流拠点として大きな期待が持たれています。また、沖縄21世紀ビジョンにおいては、沖縄県の発展に最も重要な要素は人材であるとされており、北谷町においてもグローバルな人材の教育や育成、確保が急務であると認識しています。

こうした状況を踏まえ、北谷町では、将来の北谷町や沖縄県を担う子どもたちが、国際社会へ羽ばたいていく環境を整える具体的な策として、返還予定の米軍基地キャンプ桑江南側地区に外国の大学の誘致を検討しています。

こうした国際的な人材育成の場を形成することが、町民の国際性を育み、本町の文化・教育面の発展に貢献し、より一層魅力ある北谷町を築くことができると考えています。

本講演会によって本町の施策に対するご理解がより深まることを期待しています。

～講演内容～

講師：豊川 明佳 氏
 (有)インターリンク沖縄 取締役
 沖縄大学 法経学部 特任講師



演題：夢へのプロセス
 ～チャンス・チャレンジ・チャーミング～

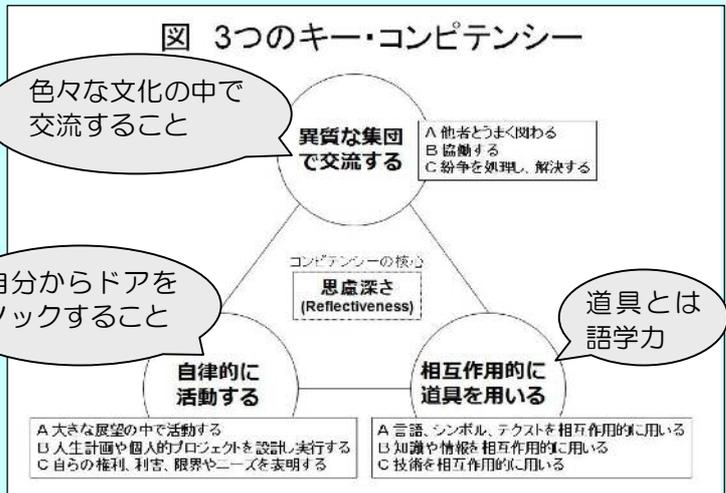
講演内容の要旨



- ### 日本の大学 vs 外国の大学
- 参加型(ディスカッション)、課題が多い
 - プレゼンテーションは、時間を超えると打ち切り
 - 課題の提出方法
 - 定期試験 時間/提出方法

海外の大学は、参加型のディスカッション重視で、課題が多いのが特徴です。また、プレゼンは時間厳守、試験は一度落ちると2回目は最低点しかつきません。そのため、海外の大学はきついし、辛い！しかし…

右の図は、これからの教育で大事になってくるものを表しています。
 「海外の大学で学ぶと、この3つが自然に培われます！」
 企業が採用時や入社後の人材育成で重要視しているのは「社会人基礎力」であり、特に主体性を持って前に踏み出す力が求められています。
 海外の大学では、そうした力を身につけることができます。



(国立教育政策研究所 研究案内より)

- ### 3つのチャ・チャ・チャ
- CHANCE
- 「夢と現実」があいまったバランス感覚を持つ
 - CHALLENGE
- リアリストとしての実行力を強化する
 - CHARMING
- ロマンチストとしての感性を磨く

□チャンスとは、自分にできることとできないことは何なのか、夢と現実のバランス感覚を持つこと。
 □チャレンジとは、現実をみて実行力を強化すること。
 □チャーミングとは、夢を持ちなさいということ。
 ・ロマンチストとして夢を語ることが、またチャンスにつながり、それがまたチャレンジすることにつながり、そのチャレンジによりまたロマンチストとしての道が開けるというように、1つの夢が終わるとまた新たな夢が生まれると思います。

～講演会での意見交換～

- 一般の子供たちに英語に興味を持たせるために、小中学校の現場で何が必要ですか？

→豊川氏より

自分の英語力が伸びたのは、英語をツール、手段として使ったときでした。英語を使って遊ぶなど、英語を使って何かをすることが目的になるようなことを考えると良いのではないのでしょうか。

- イギリスへ行かれてから英語を話せるようになったとのことですが、日本の英語教育の問題点は何でしょうか？

→豊川氏より

イギリスへ行ってから英語力が伸びたのは、自覚の問題だと思います。それまでは自覚が足りず勉強できなかったということです。日本で英語を勉強して、英語を話せる人はたくさんいます。英語は外国へいかななくてもできるものだと思います。

日本人は、恥ずかしいという気持ちが出てしまうので、英語を話すのは苦手ですが、海外の大学教員からは、「日本人は書かせるとすごい」「きれいな文法だ」と良く言われます。日本の英語教育に正しいものもたくさんあるということです。

- キャンプ桑江南側地区の跡地利用として外国の大学を誘致することで、まちを発展させるにはどうすれば良いかという内容の講演も必要だと思います。

今日のような講演は、将来性のある子供たちに向けて行ったほうが良いと思いました。

→豊川氏より

跡地利用に関して、個人的な意見として、私の専門である経営学の視点から、お答えします。那覇新都心は跡地利用として成功していますが、同じような「まち」があちこちにあったら行くでしょうか。もし、北谷に新しい国際的な大学ができたとするならば、いろんな国の人々が来ることになり、そこからの発展としての商業施設や住宅が期待できると思います。

→北谷町より

町が外国の大学の誘致を考えていることについては、キャンプ桑江南側の地権者の皆さんや町民の皆さんの理解を得て進めていく必要があると考えています。

そのためには、いろいろな方面からの検討を行いながら進めていくことが必要と考えており、今回の講演会については、国際的に活躍できる人が求められているという視点からテーマを設定しました。

今後、外国の大学の誘致に向けては、地権者の皆さんに対する説明会や、町民の皆さんに向けた講演会等を行いながら、皆さんと一緒に検討していきたいと考えています。

- 知り合いに、今の大学を辞めて留学を考えている学生がいます。ご助言をいただけませんか。

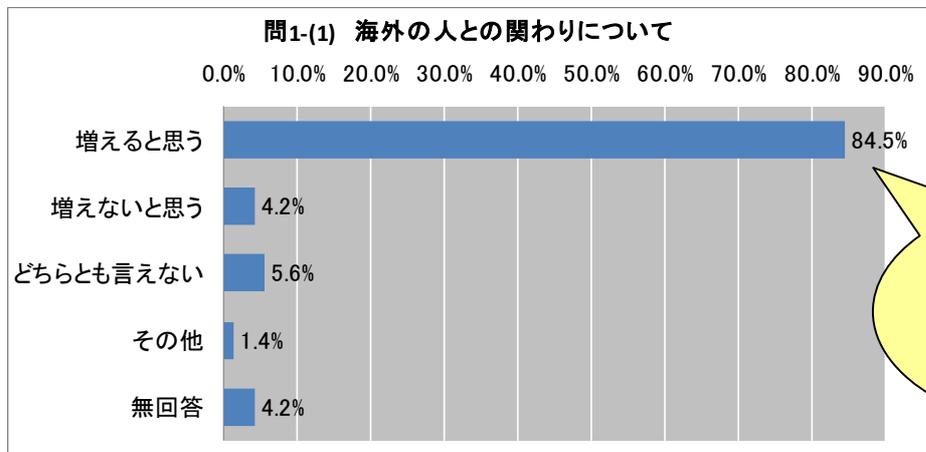
→豊川氏より

海外の大学に行った人と話をすると「つらかった思い出ばかりだけれど、それが今の糧になっている」と皆が言います。授業についていくだけでも大変なので、きついのを覚悟で行けるかどうかだと思います。しっかり勉強して来るといふ思いがあるなら、ぜひ飛び出して一歩踏み出してほしいと思います。

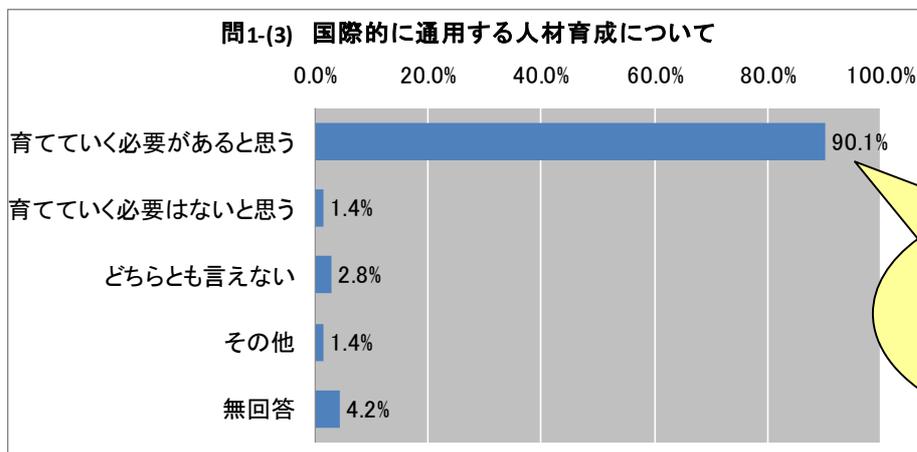
～参加者アンケートの結果～

講演会の出席者の皆様を対象に、グローバル人材育成の必要性や講演内容について、アンケート調査を行いました。(回答者数：71名)

●グローバルな人材の必要性について



今後、観光ビジネスなどによって海外の人との関わりが増えていくと思っている方が80%以上を占めています。



国際的に通用する言葉や知識を身につけた人を育てていくことについて、90%の方がその必要があると回答されました。

～今後の取り組み～

北谷町では、人材育成の必要性に加えて、キャンプ桑江南側地区の跡地利用の一環として、外国の大学の誘致に取り組んでいます。講演会のアンケートでは、「跡地利用と結びつけた話をして欲しかった」というご意見もいただきました。今後は、そうした意見や返還に関する状況を踏まえながら、跡地利用に向けた取り組みを、地権者の皆様と共に進めていきたいと考えています。今後ともご協力をお願い致します。

編集・発行/北谷町役場 総務部 企画財政課

発行日/平成25年3月

問い合わせ先/北谷町役場 総務部 企画財政課 企画係

TEL：098-936-1234（内線165） FAX：098-936-7474

このニュースに関するご意見、まちづくりに関するご質問、ご要望等がありましたら、お気軽にご連絡下さい。